

令和2年7月9日
(資料提供)

(事務担当) 所属名：農林総合研究センター 農業試験場 総合研究部 病害虫防除室 直通：257-6972

令和2年度病害虫発生予報第4号について

今後発生が予想される水稲、大豆、果樹、野菜・花きの病害虫の発生量や防除上の注意事項について掲載します。

1 予報期間 7月中旬～8月上旬

2 予報内容

(1)水 稲

穂いもちの発生は**やや多**と予想される。出穂前後の防除は必ず実施する。また、葉いもちの発生地域では、出穂前後の防除後も注意深くほ場を観察し、さらに進展が見られるようであれば追加防除を実施する。

紋枯病の発生は**やや多**と予想される。発病を確認した場合、直ちに防除を実施する。

斑点米カメムシ類の発生は**多**と予想される。出穂後の好天により水田侵入が助長されるので、防除を徹底し、斑点米の発生防止に努める【病害虫発生予察注意報第2号（令和2年7月9日付）参照】。

ツマグロヨコバイの発生は**多**と予想される。今後の発生状況に留意するとともに、基幹防除を徹底する。

セジロウカ、コブノメイガの発生は**やや多**と予想される。今後の飛来状況によっては多発するおそれもあるため留意する。

フタオビコヤガの発生は**やや多**と予想される。今後の発生状況に留意するとともに、基幹防除を徹底する。

(2)大 豆

紫斑病の発生は**少**と予想される。防除適期は幼莢期から子実肥大期である。

ウコンノメイガの発生は**やや多**と予想される。7月第6半旬に1茎あたり葉巻数が6個を超えた場合、直ちに防除する。

アブラムシ類の発生は**やや多**と予想される。抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

(3) 果 樹

カメムシ類の発生は**多**と予想される。発生を認めた場合は直ちに防除する【病害虫発生予察注意報第1号（令和2年6月18日付）参照】。

ハダニ類の発生は**やや多**と予想される。抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

(4) 野 菜（さつまいも、やまのいもを含む）

スイカつる枯病の発生は**やや多**と予想される。ほ場の排水に努め、降雨前後の防除を徹底する。

アブラムシ類、アザミウマ類の発生は**多**と予想される。抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

ハダニ類の発生は**やや多**と予想される。抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

コガネムシ類の発生は**やや多**と予想される。防除適期は7月下旬から8月上旬である。

※病害虫防除の実施に当たっては、最新の農薬使用基準を確認し、遵守する。